

知るほどに楽しい 植物観察図鑑



カタクリが蜜をこぼさない仕掛けは？



マムシグサの花序に入った昆虫の運命は？

* ご注文はお近くの書店へ
インターネットでのご注文もできます
<http://www.books.or.jp/> で検索していただき、
リンク先のネット書店（アマゾン、e-hon その他）
でご購入ください。

* 著者への直接注文もできます
〒921-8813 石川県石川郡野々市町住吉町3-10
e-mail: mizuaoi@p2222.nsk.ne.jp
直接注文は、送料なし 2,400円 料金後払いで、
記念品のポストカード（コオニユリ、ミズアオイ、
ハマゴウ、ミスバショウ、ウバユリ、ジャケツ
イバラ）進呈します

こんな図鑑がほしかった！

不思議に満ちた植物の世界を
顕微鏡写真を交えた553点の写真で解説
植物の生きる知恵が感動を呼ぶ
一味違う「植物観察図鑑」

知るほどに楽しい
植物観察図鑑

本多郁夫 著

発行 橋本確文堂

B5判 / 168頁

定価2,520円
(本体価格2,400円)

合わないので花粉を運ぶことができない。しかし、蜜嚙性花へ行った場合には、蜜で示した長い雄しべの花粉を運ぶことができ、短花柱花へ行ったときには、蜜で示した短い雄しべの花粉を運ぶことができるようになっている。そこをさらに模式的に示したが、図19である。



したがって、同じ型の花からの花粉を受け取る受粉が、異なる型の花の花粉を受け取る仕組みができあがっていることになる。しかし、それは、球状のことであって、実際には、短い雄しべの花粉が長い雄しべの中ぐらゐの雄しべに付くことも十分念月得る行為である。そのときほどなるのだろうか。

三型の花の受粉については、1876年にダーウィンの蜂媒伝粉研究があるが、筆墨は及ばぬ限りしていない。フォード・ワッツマン（英語名、1891）に一言が紹介され、筆者（蜂媒伝粉）の実験結果も採集されているので、関心のある者はごらんいただきたい。結論としては、同じ型の花の花粉が付いたときには、採蜜が極めて楽いことが示されている。また、長花柱は長い雄しべで、中花柱は中ぐらゐの雄しべで、短花柱は短い雄しべで受粉した方が、すなわち、図18で示したような受粉になったときが、結実率のよいことも示されている。

私が最初に、ミソバで、雄しべの雄しべの長さによって異なる花があることを発見したとき、二型あるものと勘違いしていた。観察しないうちに、言葉だけで理解していたせいである。さて、二型と三型とはどのような関係の連なりがあるのだろうか。もちろん、二型というの雄しべや雄しべに、それぞれ長・短の二型があるということである。



図20 ハルシロソウの長花柱花 図21 ハルシロソウの短花柱花

すべての型の花が閉ざつた状態の場合、三型花では、中花柱花を採れた長花柱花に長ある、短花柱花を採れる短花柱花がある。二型花では、長花柱花を採れた長花柱花、短花柱花を採れる短花柱花は、ノミと成る。短花柱花から採れば、三型花の方が優

れていることになるわけである。



図22 花の顔は蜜が溜まっていた。 図23 花を採れる状態。

このような花の構造からすると、虫媒花でなくてはならない。実際のところ、花の鼻には蜜が溜まっていた。図23は蜜が溜まっていた。



図24 雄しべの長い雄しべ、黄色の花びらと雄しべの長い雄しべが対峙している。



図25 黄色の花の長い雄しべ 図26 黄色の花の短い雄しべ

ミソバには、蜜がある。花の長い雄しべの花粉が黄色で、花の短い雄しべと中ぐらゐの雄しべの花粉は黄色なのだ。これがどういふ意味を持つだろうか。今のところ不明である。